



☀️	旅館・ホテル	前年より状況は好転しているが、2019年レベルには至らず、県観光リカバリーキャンペーンの終了の影響が大きく、ツアー団体の集客が弱い。GWの客単価は向上しても、人手不足が深刻な為、客室稼働率を下げざるを得ない状況である。
----	---------------	---

☀️☁️	食品団地	4月度商況は、県内外ともに好調であった。足元のエネルギー価格と原材料・副資材の値上げに対応する為の価格転換も進んでおり、今後に期待している。小売店から値上幅の圧縮を求められ苦戦している企業が多く見受けられる。
	青果卸売	前年同月比で好転した組合員が12社中9社あり3月期よりは好転の気配が感じられる。3月中旬の「マスク自主判断化」により、飲食業界には好影響が出てきている様子。エネルギー、原材料等の価格高騰については業種柄それ程の影響はないと思われる。
	電気機械器具小売	4月度は、全商品平均で102.6%。省エネタイプエアコンは好調、前年比で104.3%。高級タイプドラム式乾燥洗たく機も好調、前年比で102.5%。テレビは前年比86%。
	商店街(四万十市)	飲食店等に活気が戻ってきた。県外ナンバーの車も多い。レンタル自転車の観光客も見かける。アジア系外国人客は家族連れが多いようだ。

☁️	酒類製造	観光、宴会等の活性化は感じられるが出荷数量への反映は5月以降に期待。エネルギー、原材料等の高騰について、主に電気料金、運送費の高騰の影響が大きい。
	テントシート	昨年度より帆布製品の大規模な値上げが、やっと販売価格に転嫁出来そうな感がある中で、小幅ではあるが、帆布製品、副資材等の相次ぐ高騰で非常に厳しい状況が長引きそうである。エネルギー、原材料等の高騰について、価格転嫁により、大変厳しい状況が続くと思われる。
	木製品素材生産	丸太価格については、先月より若干の値下がりとなっている。入荷量は先月と変わらない状況であるが、樹種別(スギ・ヒノキ)ではスギの量が増加傾向となっている。
	製材	一部では人材確保に苦慮しているとの声が聞かれた。
	製紙(家庭紙)	人流が活発になり、消費は回復しているが、最小限の消費に留まっている模様。節約ムードが漂っており、家庭紙の需要は、コロナ禍前まで戻らないか? エネルギー、原材料等の高騰について、価格転嫁は行っているが、追い付いていない状況。
	製紙(手すき和紙)	人流・物流と動き始めたが、組合員によって様々で少しずつ良くなっている方、まだまだ動きの鈍い状況の続いている方と分かっている。4月より電気料金の値上げ、原材料も更なる値上げと不安要素がある限り経営はよくなる。価格転嫁の理解は浸透しつつあるが、購買控えが生じている。
	コンクリート製品	前年同月比71.0%であるが、前年度が突出して多かったため、平年通りの状況と考えている。セメント、鋼材等原材料の高騰の影響がある。
	刃物製造	先月分の出荷待ちの品が付属品も入荷し、出荷することができたため、売上は上がった。外国人相手の商売をしているところより、問合せや注文が増加している。しかし、生産が追い付かない状況で思うように出荷ができない状況である。
	機械団地	年度替わりの4月の業況は、概ね例年並みの低調なスタートとなっている。電力料金の高騰により、収益に大きな影響がでている一部事業所では、取引先に価格転嫁の交渉を持ち掛けている。エネルギー、原材料等の高騰について、電力多消費の製造業では、電力料金の高騰が収益に大きく影響しており、取引先へ価格転嫁を交渉中。

☁️	船舶製造	売上高は先月増加したため、比較すると減少となるが、計画通りのため不変とした。販売価格について、アフターサービス単価の改定を行った。生産は高水準で推移している。
	珊瑚装飾品製造	4月の取引額は前年同月比163%となり、先月・先々月に続き前年を上回ったが、コロナ禍以前の水準までの回復には至っていない。
	生鮮魚介卸売	売上高は前年より増加している。GWはやはりカツオの需要が多かった。カツオ・マグロの入荷が順調なら、回復が期待できる。価格転嫁にはもう少し時間がかかりそうである。
	各種小売(土佐市)	コロナは落ち着いてきたが、町には人が動いている様子があまりない。市内に大型ディスカウントショップが開店し、小売店に厳しい状況が続いている。
	中古自動車小売	相場が安定しているが、タマ不足により在庫確保が難しい事と軽自動車の需要が多く、特に2年~5年落ちの車に集中しているため、全体の相場も高くなっている。先々月から徐々にではあるが、販売台数もコロナ禍以前に戻りつつある。
	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場 売上前年比:88.1% 利用台数前年比:89.6%中央公園地下駐車場は昨年3月末の大丸リニューアルオープンもあって前年を下回ったが、週末の街は多くの観光客と、コロナ禍からの解放された県民で賑わった。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比47%、全旅クーポン合計対比116%(全ての組合員からの報告が届いていない)。組合員募集ツアーが3年ぶりに実施されている。牧野博士の新休日 日帰りバスツアー企画も順調に開催されているが、組合クーポン売上への影響はない。
	IT事業	特に大きな動きはないが、ばたばたといくつか突発的な案件が入ってきていた。ただし、一時的なものと思われ、今後の動きを注視していきたい。価格転嫁について、一部クラウド系サービスなどの値上げもあり価格交渉をする必要が出ている。
	クリーニング	売上回復は足踏み状態。価格転嫁は進んだが、物価高騰、エネルギー価格及び原材料価格は引き続き上昇している。繁忙期の収益は横ばい。再度価格転嫁を模索する動きもある。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:128.9%、運送回数:117.3%、実働率:52.2%。1日当たりの運送収入が少しづつ増加しているが稼働(実働)率が悪いので残念な事に会社としては喜ばない。全車両が稼働すればコロナ以前の景況になるのに…。運転者不足に困っている。

☁️☔️	建具	個人住宅、店舗等の仕事が少ない。建築材料代の高騰に原因があるのかもしれない。電気代がかなり上がっているが、価格転嫁できていないところがある。
	印刷	売上高減少、設備稼働率低下と3月度に引き続き低調な状況。新型コロナの影響も徐々に回復基調だったが3月~4月の需要期に厳しい結果となった。
	生コンクリート製造	4月度の全組合員の出荷量は、対前年比95.5%であった。地域的には東部・嶺北が増加しているが、そのほかの地区は対前年比60~85%程度で、減少している。セメントの値上がりも再度あり、高知市中央部を除く地域で販売価格の見直しを行った。
	卸団地	GWの動きが大きく変わっている。「らんまん」の効果とコロナの状況により、4月は昨年と比べると大きく動いている様子。仕入品の値上がり、また、電気代、油代等の値上げが始まり、経営が厳しくなっている。メーカーの値上げが、まだこれから先も予定されている。十分な価格転嫁が出来ていない。
	ガソリンスタンド	原油価格は3月に比べると値上がりしており、政府の補助金は3月末で8円10銭が4月末現在で19円にまで上がった。この補助金がなくなるまでは、原油が上がれば補助金も上がり、下がれば補助金も下がるを繰り返し、市況価格の変動には至らないまま推移していくと思われる。
	商店街(安芸市)	新型コロナの影響で3年連続中止となっていた「商い甲子園」を、今年は「あきない復活」をテーマに掲げ、商い甲子園の復活に向けて準備を始めた。NHK連続テレビ小説「らんまん」の初回冒頭で伊尾木洞での撮影シーンが使われており、注目を集めた。これを機に、安芸への観光客が増える事を期待。エネルギー、原材料等の高騰について、価格転嫁を行ったところや検討中の店舗もあるが、値上げによる購買数の減少など影響があり得る。
	飲食店	本月は先月と同等の状況。前年同月比から売り上げは2割弱増えているが、光熱費や仕入れ価格が高騰しているため収益は悪化、波動的な原材料の値上げに価格転嫁が追い付いていない。売上高はコロナ禍以前の9割程度まで持ち直しているが、収益状況はかなり厳しい。新型コロナウィルス感染者数の減少に伴い集客数は回復基調だが、長引くコロナ禍で業界は疲弊している。縮小した事業規模を回復させるために設備投資や雇用等の助成や補助が必要。
	一般土木建築工事	令和5年4月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比79.9%、前年同月比123.4%。4月の工事請負金額は前年当月比で122.5%。令和5年4月末時点の前年対比請負金額は、国:72.8%、高知県:161.0%、市町村:110.6%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に前年対比で増加しており、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事についても継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。セメント、原材料、骨材、燃料費、人件費等高騰により生コン価格引き上げを昨年より2度にわたって実施。高知市を除く地域においては㎡当たり積算単価も4千円から5千円引き上げとなっているが、上昇分をすべて転嫁できているとは言えない。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は前年度比188.8%となった。県下全域で増加したが、特に高知中央地区、須崎地区の伸びが大きい。価格転嫁について、電線はじめ材料の値上がりは、工事価格に転嫁している。
	一般貨物自動車運送	5年度に入っても燃料価格は高騰したままで4月も石油元売りのコスト増を理由に1円程度の値上げとなった。報道等では経済活動は改善されていると言われているが、荷物は前年と比べて増加しているとは言えない状態といえる。新型コロナウィルスの影響で荷物が回復しきっていない。また、燃料高騰により運賃転嫁がなかなか進まない。